

シンポジウム

モダン文化の 〈場所〉

松坂屋、地方映画館、 名古屋の洋楽

明治期以降、西洋音楽や映画などの近代文化が日本全国へと広がっていきなで、各地域のローカルな〈場所〉はどのような役割を果たしたのでしょうか。

本シンポジウムは、いとう呉服店(現・松坂屋)少年音楽隊の活動や、この音楽隊の出身者である音楽家・栗原重一の活動、さらに当時の各地域の映画館での上映に焦点を当て、音楽、映画、演劇などの研究者が集います。早稲田大学演劇博物館が所蔵する栗原重一の旧蔵楽譜や映画館チラシを研究してきた演劇映像学連携研究拠点の共同研究チームの成果を中心に、近代の名古屋などの時代と空間を意識しながら、日本のモダン文化のルーツを問い直します。

Program

13:30~ 主催者挨拶

13:40~15:15 研究パネル1

名古屋の洋楽文化

栗原重一共同研究の紹介

山上揚平(東京大学特任講師)、小島広之(東京大学博士課程)

栗原重一と名古屋—松坂屋から浅草へ

白井史人(名古屋外国語大学准教授)

名古屋の管絃楽団—音源紹介と分析

毛利真人(音楽評論家)

松坂屋とドイツ兵俘虜との音楽交流

七條めぐみ(愛知県立芸術大学講師)

15:30~16:30 研究パネル2

映画館文化と各地域の実践

映画文化と地方都市—奈良尾花劇場資料を中心に

柴田康太郎(日本学術振興会特別研究員PD)

『五郎正宗孝子伝』(1915年)の興行と受容に関する考察

紙屋牧子(武蔵野美術大学非常勤講師)

歴史的映画館資料の残存と活用

—展覧会「日本の映画館」の経験より

岡田秀則(国立映画アーカイブ 展示・資料室主任研究員)

コメント:上田学(神戸学院大学准教授)

16:30~17:00 全体討議

進行:中野正昭(淑徳大学教授)

コメント:片岡一郎(活動写真弁士)

日時 2023年 **2/27**月
13:30~17:00

会場 名古屋外国語大学 名駅キャンパス 多目的ラオ
(BIZrium名古屋6階・イオンモールNagoya Noritake Garden併設)

参加方法 対面・オンライン

定員 対面30名・オンライン50名

対象 名古屋外国語大学の学生・教職員/一般

共催 名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンター
名古屋外国語大学世界教養学科

早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点
令和4年度 公募研究『栗原重一旧蔵楽譜を中心とした楽士・楽団研究』
(研究代表者:中野正昭)

テーマ研究「『映画館チラシ』を中心とした映画関連資料の
活用に向けた調査研究」(研究代表者:岡田秀則)

■ 申込方法

準備の都合がありますので、事前のお申込みをお願いいたします。
右記のQRコードを携帯電話やスマートフォンで読み込んでいただくか、
下記URLをパソコン等で直接入力して、申し込みフォームに必要事項を
入力、送信してください。

<https://req.qubo.jp/wlac/form/20230227>



要申込
先着順

■ 応募締切

2月23日(木) 17:00

※応募者多数の場合は先着順とさせていただきます。
定員になりましたら締切日前でも募集締切とさせていただきます。

イベントの開催にあたって

- ◎新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、開催方法を変更させていただく場合があります。
ご来場前に必ず英米語学科ホームページにて開催の有無をご確認ください。
- ◎会場では感染症対策のため、換気を行う場合があります。
発熱・咳などの症状のある方は、参加をご遠慮ください。
- ◎本イベントにおける写真撮影や録音はご遠慮いただきますよう、お願い申し上げます。
イベント中は記録用として撮影を行います。本学ウェブサイトやその他の刊行物に、
写真が掲載されることがありますのでご了承ください。

本学へのアクセスについて

〒451-0051
愛知県名古屋市西区則武新町3丁目1番17号
BIZrium名古屋6階

問合せ先

名古屋外国語大学 世界教養学科

Mail sekkyo_assistant_gg@nufs.ac.jp

